

日々^{*4}を送っています。生物学類というほぼ文系みたいな学類にはそういったベクトルに強い人はあまりいないのでとても刺激的です。

22.4.2. 悪いところ

一方、悪いところもいくつかあります。

所属する局や立場にもよりますが、特に2年生は割と忙しいです。学園祭は一年きっかりかけて準備されているので、お偉いさんになると12月から毎週木金にミーティングがある、みたいな生活になります(これはお偉いさんだけですけれど)。他に明確にやりたいことがあるなら、学実委に深く入り込みすぎるのはお勧めできませんね。

また、当日シフトによっては学園祭を来客側として楽しむ余裕がない、というところもあります。筆者はステージの生中継セッティングと当日の来客対応を兼任した結果、今年の雙峰祭は一切企画を見て回ることができませんでした。

22.5. でもやっぱり一応宣伝する

前項で実委に関して否定的な話をしましたが、正直実委自体は入り得だと思います。というのも、実委が肌に合わなかったらとりあえずやめればよいからです。

もしかすると、筆者の圧倒的な天性の文才によって実委がめっちゃ堅苦しい組織なんじゃないかと想像した人もいるかもしれません。ところがぎゅっちゃん、全くそんなことはありません。別にミーティングなんて出なくてもお咎めはないし、幽霊になったからといって怒られるようなことはありません^{*5}。

入会自体は簡単ですし、消えるのも簡単なので、少しでも興味があったらとりあえず入ってみるといいと思います。ちなみに筆者は去年の雙峰祭本番まで普通に幽霊でした。

《文責：島村 啓生》

Column. 1 この新歓冊子に使っている SAT_YSF_I について

Writer: 島村 啓生

この新歓冊子の組版を見て、LaTeX を使っていると思った人がいるかもしれません。実はこの新歓冊子は、SAT_YSF_I という組版ソフトによって生成されています。このソフトウェアは LaTeX という超メジャーな組版ソフトの欠点を解消した素晴らしいソフトなのですが、インターネット上にほとんど情報がなく、日本人でこのソフトの情報をあげているのは数人しかいないという弱点があります。そして、そんな SAT_YSF_I の情報をネットにあげている人物の一人が、筑波大学情報科学類に在籍していたりします。

さらに、彼と面識のある人間が学園祭実行委員会情報メディアシステム局に勤める筆者の同僚であり尚且つ SAT_YSF_I で学類新歓冊子を書いていました。その完成度の高さに感銘を受け、暴走した筆者によって、現在この冊子は SAT_YSF_I によって組まれています。

4 ここだけの話、筆者は生物学にかんして入学以降ほとんど成長がありませんが、情報系のスキルだけは滅茶苦茶(当社比)成長しています

5 もちろん、業務を抱えたまま音信不通になるのはダメですよ？